

「音楽とICTを活用した地域活動と社会支援」

1. 背景・目的

人は、日常において様々な課題に囲まれて生活をしている。身近な課題や地域的な課題のみならず、社会的な課題から国境を超えたグローバルな課題までその範囲は幅広い。また課題の種類も多様でそのすべての内容を正確に理解しているわけでもない。課題の存在は知りつつもその課題についてどのような取り組みがあり、自分にはどのような行動を取ることができるのか等、課題意識はあるもののその課題内容に対する理解不足により、結局何も取り組まないまま漠然としたわだかまりを抱え日々をやり過ごしていることも多い。そのような状態は、課題意識をもつ人にとっても、その人が生活する地域や社会にとっても大きな損失といえる。

そこで、課題についての現状や問題点、有益な行動等についてICTを活用して視覚情報として提供し、あわせて音楽を活用してより人の感性に訴えられよう働きかけることにより、課題についての理解促進と課題解決のために行える社会的行動の創出・支援を行うことを本プロジェクトの目的とする。

2. 概要

プロジェクトの概要は以下の通りである。

- ① 生活課題や地域課題など各種課題を検討し、プロジェクトで扱う課題を決定する。
- ② 決定した課題の理解に役立つ情報素材を収集する。
- ③ 情報素材を整理・分析・加工し、視覚・聴覚情報として動画の形にまとめる。
- ④ 作成した動画を用いてフィールドワークを実施する。

3. 年間スケジュール

(1) 地域プロジェクトI

- ① 10月～11月
 - ・生活課題や地域課題など各種課題を検討し、扱う課題を決定する。
 - ・決定した課題の理解に役立つ情報素材を収集する。
- ② 12月～1月
 - ・情報素材を整理・分析・加工する。
 - ・情報素材を視覚・聴覚情報として動画の形にまとめる。

(2) 地域プロジェクトII

- ① 3月～6月
 - 連携先の検討・決定とフィールドワークの実施。
- ② 7月
 - 活動内容の振り返りと今後の課題の検討。

4. プロセスと成果

(1) 設定課題

「函館の運転マナーの向上」

(2) 設定テーマ

設定課題に基づき以下の5つのテーマを設定し、それぞれの理解を図る動画を製作した。

- ①なぜ乱暴な運転をしてしまうのか
- ②乱暴運転による事故の実態
- ③事故被害者とその家族のその後の生活
- ④無意識に行っている迷惑運転の内容
- ⑤事故を起こさないための意識・行動

(3) 活動の実際

① フィールドワークの準備



② フィールドワークの様子



5. 地域からの評価

地域からの評価を集計・分析したところ、「運転マナーに対する意識の変化」と「本プロジェクトの活動内容への評価」の2つに分類することができた。さらに、「運転マナーに対する意識の変化」では「自分の運転の反省」「運転自体の再認識」「安全運転への志向の高まり」「事故被害の認識」の4つの項目、「本プロジェクトの活動内容への評価」では「動画と音楽による啓発効果の高さ」「日常場面で啓発機会を得られる良さ」「今後の活動への期待」の3つの項目に集約された。

(1) 運転マナーに対する意識の変化

① 自分の運転の反省

- ・あおられたらあおりかえして、危ないとわかっているけど大丈夫だと思い込んで今まで運転していたが、本当に危ないから心の中でストップをかけるようにしたいと思いました。
- ・時々ナビなどに目を落として前を見ていない場面があるため、改めようと思いました。
- ・ながらスマホはたまにしまうので、気をつけようと思った。

② 運転自体の再認識

- ・運転は本当に危ないものだと思いました。
- ・少しの油断や操作ミス、気持ちが大きな事故を引き起こすのだと改めて感じた。
- ・安全確認をしっかりしなければ、いつ加害者になってもおかしくない。
- ・スピードの出しすぎ、急いでいるときの信号無視など、ついやってしまうことの先に何があるのか考えたいです。

③ 安全運転への志向の高まり

- ・自分と相手のためにも事故を起こさないよう、安全運転を心がけようと思います。
- ・安全運転に心がけ、大切な人たちを守ろうと思いました。
- ・自己中心的な運転ではいけないと強く感じ、思いやりの運転が大切だと思い直すきっかけになりました。
- ・安全確認をもう一度意識しなければならないと思いました。

④ 事故被害の認識

- ・被害者、加害者どちらの心理状態も知ることができ、お互いにお互いの気持ちを理解することが大切だと考えることができました。
- ・自分の気持ちやちょっとした見落としで、誰かの日常を奪ってしまうと思うと、怖くなりました。
- ・加害者の方が言われた言葉や、遺族の方の言葉に胸が痛くなりました。

(2) 本プロジェクトの活動内容への評価

① 動画と音楽による啓発効果の高さ

- ・音楽が映像をより引き立てて、イメージを膨らますことに繋がっていて、とても考えさせられる時間になりました。
- ・音楽も映像も言葉も全て迫力や重さがあり、とても素晴らしいと思いました。
- ・普段は何気なく見る交通安全動画ですが、生演奏が伴うことで自然と目がいき、いつもと違う感覚で見ることができた。

② 日常場面で啓発機会を得られる良さ

- ・思いがけない場所でこのような内容、音楽に触れあえて嬉しかったです。
- ・安全に関するセミナーをしばらく受けていなかったなので、良い機会でした。
- ・普段あまり考えない運転マナーについて改めて考える機会となりました。

③ 今後の活動への期待

- ・函館市の運転マナーは他の市町村よりも酷いので、この活動は継続してほしい。
- ・とても素晴らしい取り組みだと思います。
- ・今後もぜひ続けてほしい。
- ・歩行者や自転車のマナーについても取り上げてほしい。

6. 総括

本プロジェクトの目的に基づき、以下の内容について概ね達成することができた。

- ① 設定課題に対する理解促進。
- ② 生活課題、社会的課題に対する意識啓発。

7. 今後の課題

今回実施したプロジェクトにより、ICTを活用した視覚情報とあわせて人の感性に働きかける音楽を活用することは課題についての理解促進と課題解決のために行える社会的行動の創出に効果があることが実証された。今後は、本プロジェクトで構築したフォーマットを用いてより効果のあるテーマは何かを検討し実行することが課題である。

8. メンバー一覧

- ・教員：外崎 紅馬
- ・学生：濱谷真夕、遠藤美紗、小水内佳紘、小林紗季、佐々木幹太、奈良龍馬、小林靖華、阿部拓海

以上